學藝新聞

第19号 2022年(令和4年)3月19日発行

■ 国際科 …… 1
■ 国際科・進路指導部 …… 2
■ ボランティアサークル …… 3
■ 附属中 マルチカルチャーデイ …… 4
■ 高等学校 …… 5
■ 輝く人（在校生） …… 6
■ 女子サッカー …… 7
■ 学芸スポーツ …… 8

■発行元
学校法人 大阪学芸
大阪学芸高等学校
大阪学芸高等学校附属中学校
〒558-0003 大阪市住吉区長居1丁目4番15号
TEL.06-6693-6301　FAX.06-6693-5173

国際科、オンラインで飛躍!!

※撮影時のみマスクを外しています。

学芸ニュース

国際科各学年、他国の方々とオンライン交流

2-A

マレーシア オンライン誘致プロモーション

2021 年 10 月 28 日（木）に大阪観光局と本校国際科 DD コース 2 年 A 組の生徒がコラボし、マレーシアの先生方に日本の学校をオールイングリッシュで紹介するオンライン誘致プロモーションを行いました。生徒たちは一生懸命準備して、リハーサルを重ね、当日は滞りなく予定通りこなすことができ、マレーシアの先生方にもたいそう喜んでいただきました。これをきっかけに、より多くのマレーシアの学生たちが日本に興味を持ち、日本を訪問してくれることを願っています。

当日の様子を撮影し、編集したものはこちらの QR コードから視聴できます。生徒たちの頑張りをぜひご覧ください。

【2年A組　恵本茉奈（えもと　まな）さん　感想】

このプロジェクトを通して、「相手によりよく伝えるためにはまず自分達がよく知ることが大切なのだ」と実感しました。各クラブの先生方に直接質問しに行き、学校の特色などを考え、そのことを英語でライブ配信を通して伝える。私たち 2 年 A 組にとって初の試みでしたが、10 人で協力し、最高のものができたと思います。英語をただ流暢に話せばいいというだけではなく、伝え方に心を配り、言葉がよく分かるようにハキハキと喋り、身振り手振りも交えながら相手にメッセージを届けることが一番大切だと感じました。とても良い経験になりました。

※撮影時のみマスクを外しています。

1-B

国際科１年留学コース１年Ｂ組がカナダに到着しました

2022年1月15日（土）、国際科1年留学コースの1年B組19名が伊丹空港を出発し、カナダの首都オタワに到着しました。

コロナ禍の中、本校に入学した生徒たちは、様々な不安を抱えながらも、留学のためにひたむきに努力を続け、現地の高校生やスクールコーディネーターとのオンライン交流で英語力を磨き続けてきました。

生徒たちは、1月16日（日）にそれぞれのホストファミリー宅に到着し、早速17日（月）よりオンラインでのオリエンテーションを受講しました。オリエンテーションでは、カナダの地理、歴史、文化から、実践的な内容の英作文など、非常に幅広い知識を学びました。また、2月からは現地の高校に通学しています。それぞれの高校で、人脈を広げるチャンスと考えて積極的に行動をしている様子には、とても頼もしいものがあります。待ちに待った留学生活が始まり、この1年間の留学を実りあるものにしよう、という強い意志が感じられました。

1年後の帰国時にひと回りもふた回りも成長した生徒たちに再会することを今から非常に楽しみにしています。この留学生活をスムーズに送れるよう、引き続き現地の教員やスタッフの方と力を合わせて、サポートしていきたいと考えています。

全生徒

在カナダ大使館とのオンライン交流

2021 年 12 月 16 日（木）、留学中の 2 年 B 組を除く国際科 1・2 年の生徒が、本校地下ホールにて在カナダ日本国大使館とのオンライン交流に参加しました。

在カナダ大使館の広報担当者である Steven Lapointe 氏によるプレゼンテーションでは、カナダの地理や歴史、日本との貿易の状況などをご紹介いただきました。なかなか学ぶ機会のなかったカナダについての理解を深めることができ、貿易については日本とカナダの意外なつながりをより強く感じるきっかけとなりました。

カナダの特産品であるメープルシロップやスポーツについてのクイズもあり、生徒たちは楽しみながらしっかりと学んでいました。

プレゼンテーション終了後の質疑応答では、生徒たちからの様々な質問に丁寧にお答えいただきました。大使館の職員の方から直接お答えいただける大変貴重な機会ということもあり、生徒たちは外交や国際交流について積極的に質問し、カナダについてさらに理解を深めていました。

世界を舞台に活躍したいと考えている国際科の生徒たちにとって、たくさんの学びや気づきのある、有意義な時間となりました。

2-B

全権大使とオンライン交流

2021 年 7 月 24 日（土）から 2022 年 1 月 29 日（土）までカナダの首都オタワに留学していた 2 年 B 組 24 名は、1 月 25 日（火）にカナダ国駐箚（ちゅうとう）特命全権大使の川村泰久氏とスクリーンを通して交流会を行いました。交流会において 2 年 B 組の生徒たちは、半年間の留学で得た経験を発表しました。特に、「カナダを含む世界が困難に直面する中で留学を通じて人々と交流し、日本とカナダとの友好親善に大きく寄与したこと」が称えられ、大使より感謝状が贈られました。大使をはじめ領事や書記官の方々にもオンライン参加していただき、生徒たちにとって非常に貴重な経験となりました。また、この交流会の様子は川村大使のツイッターでも発信されました。

1年生コンテスト受賞

国際科 1-A

国際科では生徒に各種ボランティア活動やコンテストへの積極的な参加を勧めています。
課題として行ったもの、あるいは自主的に参加したもの、と様々ですが、
1 学年で今年度、賞を獲得した生徒の活躍を紹介します。

1 年 A 組　中山悠聖（なかやま　ゆうと）さん

◎全国英語教育研究団体連合会主催
「第 60 回全国高等学校生徒英作文コンテスト」入選

今回、賞を頂いたエッセイは、夏休み中の課題として取り組み、提出したものでした。内容は「新型コロナウイルス感染拡大による自粛期間をどのように過ごしたか」について英語で述べるというものでした。私は自分の家族や親戚と過ごした時間について書き、特に叔母から聞いた海外体験の話や、それについて自分の感じたことをまとめました。普段の授業でも英語を話したり書いたりする機会は多いのですが、エッセイということで、文法や単語の使い方に気を配り、文章構成がきちんとしたものになるように、いつも以上に気を付けて書くよう心掛けました。書き進める中で知らない単語や表現がたくさんあることを実感し、まだまだ学ばないといけないことがたくさんあるな、と感じていたのですが、賞を頂いたと聞いたときは本当に嬉しく思いました。今後もしっかりと勉強を続けて、さらにいろいろなことに挑戦していきたいと考えています。

1 年 A 組　山本凜音（やまもと　りん）さん

◎公益財団法人勤労青少年躍進会・一般社団法人日本勤労青少年団体協議会主催
「若者を考えるつどい 2021 働くってなんだろうエッセイ」
公益財団法人勤労青少年躍進会理事長賞を受賞

夏休みに予定されていたカナダ・スークへの短期留学が新型コロナウイルスの影響で延期になってしまったので、何か目標をもって将来の役に立つことを見つけて頑張ろうと思い、いろいろな作文コンテストに応募しました。今回、賞を頂いた作文のテーマとなっていたのは「仕事」についてでした。自分自身が仕事をした経験もなく、自分なりの「仕事観」も確立していない状態で書き始めたのでとても悩みました。しかし、調べていくうちに、いろいろな職業の人がお互いに支えあいながら世の中は成り立っていて、必要の無い仕事というのはひとつも無いのだということをあらためて実感しました。なかなか考えがひとつにまとまらないこともありましたが、自分の書いた原稿を周囲の人に読んでもらったりしながら、きちんと伝わる内容になっているかどうか、納得するまで完成度を高めていきました。その結果頂いた賞なので、とても嬉しく、達成感を味わいました。これまでに頂いたことのある賞が税の作文と今回の作文と、両方とも作文系のものなので、今後は数学や理科に関することや、創造力が必要なことにも挑戦していきたいと考えています。

進路指導部より

公募推薦入試に関しては、全体的に例年と大きな変化はなく落ち着いた入試でした。ただ、コロナ禍による不況の中、理系の志願者が増加、中でも情報系の学部の人気が高かったようです。特に近畿大学情報学部は新設学部ということもあって注目され、受験生が集中しました。文系では経営学部の人気が高く、志願倍率が 5 倍を超えた大学もあった一方で、国際系や観光系の学部ではどの大学も受験生を集めるのに苦戦していました。現在の社会情勢からみて、受験生がこれらの学部への出願に二の足を踏むことも仕方のないことではあります。しかし、彼らが大学を卒業し、社会に出る 4 年後も現在と同じ状況のままでしょうか？そうではなくなる可能性も低くないと予想されます。4 年後には、国際系や観光系の学部で学び研究した内容に対して、社会からの需要がむしろ高まってくるのではないか、と個人的には思っています。

次に、本校の公募推薦入試の結果から注目すべき点について述べていきます。1 点目は、3 年生が昨年度よりも 200 名少ない中、近畿大学の延べ合格者数を維持できたということです。ここ数年のデータを比較しても、今年度は同大学の合格率がもっとも高く、大健闘だったといえます。2 点目は、摂南大・桃山学院大に関しては、合格者数を大幅に減らしたということです。この件に関しては、本校生の出願自体が産近甲龍にシフトしていったことと、校舎移転で人気のでた追手門学院大への出願が増えたことが影響したと考えられます。

大学入学共通テストは 2 回目を迎えました。今年度は、平均点約 60 点で易しかった昨年度と比較して平均点は下がるだろうと予想されていました。結果は予想通り、ほとんどの科目で昨年度よりも問題レベルが難化し、平均点も下がりました。特に数学ⅠA では平均点が 20 点下がり、困惑した受験生が多数生じ、ニュースでも大きく取り上げられていました。本校生も当初の目標点に達しなかった生徒が多く、動揺している者もいましたが、国公立大学の合格ラインも下がっていることを後日確認すると、落ち着きを取り戻し、出願準備へ進みました。

一般入試で私立大学や国公立大学を目指す生徒にとって、2 月からが入試本番です。本校では一般入試の受験を推奨しており、その生徒の割合も年々増えてきています。行きたい大学に対し最後まで諦めず目指す生徒を、教員一同しっかりとサポートしていく所存です。

3 月 8 日時点での現役生大学入試結果を右の表にて一部紹介します。

大学名	合格者数（延数）
大阪大	1
大阪公立大	1
慶應義塾大	1
上智大	1
中央大	4
立教大	5
関西大	59
関西学院大	14
同志社大	9
立命館大	21

大学名	合格者数（延数）
京都産業大	45
近畿大	198
龍谷大	41
同志社女子大	11
京都女子大	4
武庫川女子大	15
関西外大・京都外大	47
大阪経済大	38
大阪工業大	22
摂神追桃	257

今年度入試最終結果については、
令和 4 年 6 月発行『進路のしおり』をお待ちください。

高等学校／附属中学校

地域に貢献!ボランティアサークル

国際ボランティア

ベトナムデイズ2021

実施日 11月20日（土）・21日（日）
大阪国際交流センター　参加者 5名×2日＝計10名

大阪ミナミの南（あべの・天王寺、上本町、新今宮、四天王寺）で毎月実施されている「ええやんまちフェス」では、マルシェ、ワークショップ、展示など、地域ごとに様々なイベントが行われています。11月のイベントとして大阪国際交流センターで催された「ベトナムデイズ2021」に、本校生徒がボランティアスタッフとして参加しました。イベントでは、ベトナム人実習生問題の講演会や映画上演、文化紹介（獅子舞の演舞・竹笛の演奏）、ベトナム料理の紹介、カービング体験、ベトナム雑貨展示販売、ベトナム民族衣装の1つであるアオザイの着付け体験が行われました。

本校生徒の担当した活動内容は会場の設営準備・片付け、受付、ワークショップのサポートです。初日は獅子舞の演舞メンバーに欠員ができ、急遽男子生徒が“The Earth God”の役をすることになりました。また、女子生徒がアオザイや民族衣装を着用してお手伝いする姿もありました。

1日目 名越（なごし） 勇人（はやと） さん

私はこのボランティアでベトナム獅子舞に参加しました。ベトナムの方と長い時間話したり一緒に作業したりするのは初めてだったので、少し緊張しましたが、相手の方々が日本語を喋ってくれたのでとても助かりました。日本語が100%通じる訳ではないので、通じなかったときはゆっくり話したり、ジェスチャーを使ったりして「どうすれば相手に伝わるのか」を考えるのも楽しい過程でした。そして、相手に上手く伝わった時はとても嬉しく感じました。また、ベトナムの民族衣装が可愛く印象的でした。イベントを通じてベトナムの方々との距離が縮まったように感じられ、嬉しく楽しく貴重な時間となりました。

2日目 2日目参加者より

元々海外の人と話してみたいという思いがあり、今回の国際ボランティアに参加しました。先輩方と一緒に活動する中で、指示されたことだけでなく、自らすべきことを考え、行動に移すのが大事だ、と学びました。会場では多くのお客さんと接する機会がありました。仕事でベトナム野菜を扱ったことでベトナムに興味を持って来場された方など、イベントに参加するきっかけは様々でした。体験コーナーではアオザイの試着があり、私も着させていただきました。軽めの素材で着やすく、上の服は長い丈の横にスリットが入っているため動きやすいデザインでした。ベトナムの気候が高温多湿なためこのような素材や形になっている、ということで、日本の夏でも快適に過ごせそうだと感じました。

また、フラワーゼリーの体験もしました。日本で料理学校に通っているというベトナム人のスタッフの方が作り方を丁寧に教えてくださったおかげで、綺麗に作ることが出来ました。今回国際ボランティアに参加して、ベトナムの人や文化に触れることができ、ベトナムについてもっと知りたくなりました。

阿倍野区防災訓練

実施日 12月18日（土）
阿倍野連合会館　参加者 1名

阿倍野区で実施された防災訓練に“被災者の外国人”役として本校生徒が参加しました。このイベントは、区役所の職員や地域の人が“日本語のわからない外国人”を安全に誘導したり、避難所での生活を説明したりする訓練のために行われています。会場では、避難所の受付や、簡易トイレの使用、災害用テント・段ボールベッドの使用など、なかなか実際に見る機会のない避難所での体験を行いました。一通り体験した後に参加者全員が会議室に集合し、互いに感じたことや改善すべき事柄について話し合いました。地域の方々と交流することができ、非常に勉強になるイベントでした。1月29日（土）にも同様に中央区で防災訓練が行われ、本校生徒が参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため急遽中止となりました。

山路（やまじ） 孟徳（たけのり）さん

私は今回の防災訓練で大変貴重な体験をさせていただきました。訓練の内容は、災害時の外国籍の方の避難誘導や器具の使い方についてで、共同生活の大切さや協力することの重要性を勉強しました。めったに触れない機械の操作や心肺蘇生法を体験することで、私は自分自身が成長したと感じました。

また、私は日本語がわからない外国人役として参加し、言葉の壁に直面しました。互いの言葉が通じず、とても不安だったことを今でも覚えています。もちろん私は日本語がわかりますが、もしわからないとすれば、と考えるとゾッとします。外国の地で災害に直面し、右も左もわからない、家に帰ることもできない、頼れる人もいない、きっとそれはとても怖く恐ろしいことでしょう。今回の訓練を経て、しっかりと周りの方々に気配り、そして寄り添える人になりたいと思いました。今回のように訓練を受けられたことを改めて嬉しく思います。

セレッソボランティア

セレッソ地域清掃

実施日 12月17日（金）
長居・ヨドコウ桜スタジアム周辺地域　参加者 19名

長居商店街や長居公園内施設の関係者、セレッソ大阪のスタッフと一緒に、ヨドコウ桜スタジアムから長居商店街、西田辺駅前周辺で清掃活動を実施しました。

当日はスタンド前に集合し、森島社長からの挨拶や諸注意・清掃範囲の説明を受けた後、数グループに分かれて出発しました。参加者はお揃いのセレッソ大阪のピンクのタオルを首に掛け、ピンク色のトングとゴミ袋を持って商店街や我孫子筋沿いの道、駅周辺地域を回りました。溝や生け垣の中には、ペットボトルや空き缶・タバコの吸殻が思いのほか捨てられており、隠れた場所まで清掃に勤しんだ結果、予想を超えてたくさんのゴミが集まりました。セレッソ大阪では定期的に地域の方々との清掃活動を実施されており、今後も参加していきたいと考えています。

附属中学校

異文化体験　異文化交流

マルチカルチャーデイ

日頃の英語教育や国際理解教育の成果を確かめ、多文化共生の大切さをより深く理解するために、附属中学校では毎年12月に「マルチカルチャーデイ」という日を設けています。
今年度の取り組みについてご報告いたします。

中学1年生

12月20日(月)　中1(校内)

中学1年生は様々な国の遊びを体験しながら異文化を学ぶ場として、公益財団大阪府国際交流財団よりOFIX国際理解教育外国人サポーターの方を派遣していただいて校内に会場を設けることにより、異文化交流体験学習プログラムを実施しています。今年度は中国・エジプト・フィリピン・ブラジル・アメリカの5カ国からの留学生の方に来ていただきました。初めにホールにてそれぞれの国の紹介を聞きます。生徒たちは、実際にその国で暮らしていたサポーターの方々のお話に耳を傾け、スライドに映し出される景色に感嘆していました。また、国に関するクイズでは「授業で習った!」「本で読んだことがある!」と、自分の知識を披露することができ、嬉しそうな声を上げていました。

その後、体育館やホールに分かれて、各国の遊びの文化を実際に体験しました。小さなボールを使った遊びをしたり、紙を使う対戦型の遊びをしたり、さまざまな体験を通じて交流を深め、楽しい時間を過ごすことができました。

これまでに学んできた知識と今回の体験で、世界の様々な文化への興味・関心が高まった1日となりました。

中学2年生

12月22日(水)　中2(校内)

中学2年生は、本校地下ホールで映画鑑賞をしました。60年代のアメリカを舞台とし、持ち前の明るさと行動力で人種差別や偏見に立ち向かう少女の活躍を描く映画に、生徒たちは熱心に見入っていました。鑑賞後、「自分ならどう行動するか」を考え、自分の意見をワークシートに記入する姿が印象的でした。生徒の感想より一部を紹介します。

・映画を見て、「やはり差別はだめだ」と改めて強く思いました。海外から日本にやってくる人たちがたくさんいます。一人一人違うところがあるのは当たり前なので、お互いを理解しあい、楽しく交流したいと思いました。

・今回のマルチカルチャーデイでは人権について学びました。当時のアメリカの人権差別がひどかったことがよくわかりました。肌の色や体型などで人が差別されているのを見て、とても悲しく感じました。それでも映画の中の主人公の前向きな姿が素晴らしいなと思いました。私も、自分の言葉が人を傷つけるものになっていないかどうかをよく考えたいと思います。

・何十年も前から起こっている差別が今なお起きていることを重く受け止め、そんな困難な状況に立ち向かって抵抗している人たちを誇りに思い、周りの人たちに思いやりを持って行動しようと思います。マルチカルチャーデイは良い時間となりました。

・差別は本当に良くないと思いました。自分も同じことをされると嫌な気持ちになります。だから、誰にでも同じように接するようにしたいと思います。

中学3年生

12月23日(木)
中3(ECC国際外語専門学校)

中学3年生は梅田にあるECC国際外語専門学校の「グローバル体験プログラム」に参加しました。

今年度は「英語で留学・ホームステイ体験」。搭乗手続きや入国審査における基礎知識を全員でテキストを見ながら習得します。チェックインカウンターを模した部屋で手続きに挑戦した後、飛行機内で離着陸の安全確認や座席操作手順、機内サービスなど、空港に到着するまでの流れを英語で実践、体験しました。次はホストファミリーとの初対面時の流れを1人ずつ体験します。日本から持ってきたお土産を渡し、説明するシチュエーションを留学生スタッフと練習しながら、日常的に使うフレーズを学びました。また、留学生スタッフと英語でフリートークに挑戦し、初対面の挨拶から趣味や自分の好きなものなどについて、自由なトピックでの会話を楽しみました。

いずれの体験でも、始める前は緊張や不安の色を浮かべていた生徒たちですが、プログラムが開始すると、本物さながらのシチュエーションルームに感動し、「本当に飛行機に乗っているみたい!」と楽しみながら、英語で積極的にチャレンジしていました。また自己紹介の場でも、一生懸命意欲的に英語で伝えていました。

このプログラムを修了したことによって、「これまでの学びに自信が持てるようになり、今まで以上に英語に対する勉強意欲がさらに高まった」「もっと英語を勉強して色々な人と交流していきたい」という声も聞こえてきました。

中1から中3まで、いずれの学年も新型コロナウイルス感染予防対策として「少人数のグループを作る」「使ったものはすぐに消毒する」「密を避ける」などを徹底して行いました。その中で、物おじせず、楽しみながら自分たちの意見を伝え、培ってきた力を発揮していました。

修学旅行

12月8日(水)～10日(金)の2泊3日で沖縄・八重山諸島方面へ修学旅行に行きました。1日目は竹富島でレンタル自転車でのサイクリング、2日目はクラブメッドで様々なアクティビティに参加、3日目は水牛車に乗って由布島へ渡り、南国の植物観賞を楽しむなど、貴重な体験ができました。

高等学校

思い出残る 学校生活

高校1年生 海遊館＆丸善インテックアリーナ大阪・カナダ留学

この1年間、1年生のみなさんは制約の多い中、日々の授業やクラブ活動、学校行事に積極的に取り組んでくれました。晴天に恵まれた海遊館での校外学習では、水槽をのぞき込んだり記念写真を撮ったりしながら、クラスメイトと楽しい時間を過ごすことができました。丸善インテックアリーナ大阪で実施した体育祭とスポーツ大会では、歓声を上げるみなさんの姿を見ることができました。また、B組はカナダでの1年留学に向けて無事に出発しました。

4月からは高校2年生になります。高校生活に慣れずに戸惑う1年生や、進路の獲得に向けて受験勉強に励む3年生の間にあって、2年生は高校生活を最も充実させる学年です。新しいコースやクラスで、高校卒業後どのように生きていくかを考えながら、自らを豊かにするための勉強を本格化させていく時です。状況を見極めながらにはなりますが、修学旅行も予定されています。部活動では、先輩たちに学びながら、中心的存在となっていきます。

それぞれの目指すべき道について考え、2年生に向けて着実に準備を始めていきましょう。

高校2年生 前向きに励んだ2年間!

高校2年生は入学当初より新型コロナウイルスに翻弄され、さまざまな不便やそれに伴う歯がゆい思いを経験してきました。入学式の中止に始まり、文化祭中止等、諸行事の変更を余儀なくされ、また授業もオンラインでの開始となるなど、自分たちが思い描いてきた高校生活をなかなか送れずにいたと思います。ただ、そのような中でも、積極的に授業に参加し、感染予防対策を行った上で従来からの形を変えて校外学習・体育祭といった行事を実施し、臨機応変かつ前向きにこの2年間を過ごしてきたと感じています。

4月からは3年生になります。自分と真剣に向き合い、将来に向かって新たな一歩を踏み出していく学年となります。この2年間で培った「前を向く力・柔軟に考える力」を発揮し、有意義な一年にしていくことを期待しています。

（写真は2021年10月15日(金)に実施された校外学習のときのものです。素晴らしい天候のもと、大阪の文化や自然に触れ、クラスメイトと共に過ごす貴重な機会となりました。）

高校3年生 SDGs × 苺

河南町の苺をブランド化!生徒たちが考えた商品名が市場へ!

2020年10月16日（金）に実施された校内・校外学習のうち、本校で開講された「苺のブランド名を考える」という講座の中で、受講者たちが「これから市場で販売される苺のブランド名」を考え、実際に苺を販売する農家の方の前でプレゼンテーションを行いました。その中から2つの名が取り上げられ、1つは市場で販売される苺のブランド名として採用されました。もう1つは、河南町のふるさと納税の返礼品である「苺ジャム」の商品名として採用されました。大阪学芸生も関わる中で生み出された商品名が多くの方々と繋がり、より広く知れ渡っていくのは嬉しい限りです。

採用された2つの商品名とそれぞれの命名の由来は以下の通りです。

「美姫星」（はるひめぼし）… 苺ブランド名

（命名者:田中 香羽さん・松岡 希歩さん・浅井 優輝さん・田渕 魁さん）
河南町の夜空を見上げた時に見える綺麗な星空からこの名前が生まれました。

美姫星（はるひめぼし）
〜 リトル・プリンセス 〜

※撮影時のみマスクを外しています。

「Frigga」（フリガ）… 苺ジャム名

（命名者:白岩 慶一朗さん・地本 樹生さん・長阪 碧さん・平塚 朱音さん）
北欧神話に登場する愛と豊穣の女神で、「苺を愛した女神」とも言われています。

※撮影時のみマスクを外しています。

卒業生508名が巣立ちました

緊張の1年目、試練の2年目、成長の3年目

3年間を振り返ると、学校生活の半分近くが新型コロナウイルスとの闘いでした。しかし、生徒たちは置かれた環境下でどう過ごすかを考え、苦難を乗り越えようと必死に頑張り、そして進路獲得に向けて努力を重ねました。今年は最小限ではありましたが、オンライン入試説明会、体育祭、劇団四季「リトルマーメイド」の観劇、と行事を行うことができました。特に体育祭と劇団四季の観劇は受験勉強の合間の良い息抜きになったのではないかと思います。

この3年間で生徒たちは逞しく成長しました。2月18日に本校を巣立った508名がこれからどのように活躍していくのかを想像すると、期待と楽しみでわくわくします。卒業生の中からいつか学芸新聞で特集される「輝く人」が出てくることを期待しています。

在校生の活躍

輝く人 リポート vol.57

プラス思考でピンチをチャンスに変えていく

大山さんは4歳でピアノを始め、現在は日本のみならず世界で活躍しています。ピアノの練習や大会についての思い、さらに今後の目標についてインタビューしました。

高校 1年　大山（おおやま） 桃暖（もだん）さん

大山 桃暖　経歴と実績

★国内コンクール・演奏会出演関連★

- 全日本学生音楽コンクール
  小学生部門　大阪大会本選入賞。
  中学生部門　大阪大会本選第２位、全国大会第３位。
  高校生部門　大阪大会第１位、全国大会第１位、並びに横浜市民賞、音楽奨励賞、野村賞、井口愛子賞、NHK会長賞受賞。
- ピティナピアノコンペティション
  2015年　C級全国決勝大会銀賞。
  2018年　E級西日本地区本選第１位及び大阪府知事賞受賞、全国決勝大会ベスト18賞（第４位）。
  2019年　F級西日本地区本選第２位及び大阪音楽大学賞受賞、全国大会決勝入選。
  2021年　G級本選二次２地区第１位、全国決勝大会銅賞。
- 2020年 第２回ラフマニノフ国際ピアノコンクール in Japan 第３位
- 2021年 京田辺市音楽コンクール中学生部門　金賞及び審査員賞受賞。　褒賞に京田辺市音楽コンクール祝祭管弦楽団とコンチェルト共演（指揮　関谷 弘志先生）。
- 2021年 第11回岐阜国際音楽祭コンクール 2021 専門コース ピアノ部門 高校第１位、岐阜市長賞と優秀賞も併せて受賞。
- 2019年「期待される若き演奏家の集い」出演（茨木）
- 2021年 第６回 豊中音楽コンクール 高校の部 第１位。
- 2021年 第31回 日本クラシック音楽コンクール ピアノ部門 高校男子の部 第２位（第１位なしの最高位）。この結果 2022年３月にコンチェルトにて演奏会出演予定。（東京）
- 第23回 泉の森フレッシュコンサート出演（泉佐野市）。優秀者に選ばれ、2022年９月開催予定の「泉の森フレッシュガラコンサート」に出演決定。
- すばるイブニングコンサート『大山桃暖　ピアノ・リサイタル』出演。

★海外コンクール・演奏会出演関連★

- 2019年 イモラ国際ピアノオーディション in Japan 特別優秀賞受賞。奨学金にて、イモラサマーピアノフェスティバル参加。現地イモラ（イタリア）にて、イモラ国際ピアノアカデミーの教授陣ステファノ・フィウッツイ、イゴール・ローマ、ヴァレンチノ、横山緑、４人の先生方のマスタークラス受講。教授陣の推薦により、Brilliant Talents in Concert（イタリア）に出演。また、現地イタリア開催のコンクールに参加し、下記の成績をおさめる。
  Imola International Piano Awards 2019（イタリア）B 部門 第１位。
- 2021年 Young Verona Piano Competition（online edition）（イタリア）カテゴリーC第１位。
- 2021年 駐日イタリア大使公邸にて演奏会出演。

★その他★

- 2018年 NHKアニメ「ピアノの森」にて、業界初吹替一般オーディションで選ばれ、小学生時代の一ノ瀬海、丸山誉子の吹替演奏担当。
- 2018年 STAND UP! CLASSIC FESTIVAL’18 出演。（横浜赤レンガ倉庫）及び春日大社御創建1250年奉祝アニメ「ピアノの森」コンサート出演　春日大社飛火野に特設ステージを建設し、大自然の中の屋外で演奏（反田恭平、髙木竜馬、牛牛、各氏と共演）。

★指導者★

ピアノを芹澤文美、芹澤佳司、各氏に師事。
ソルフェージュ（楽譜の理解などの訓練）を有田可恵氏に師事。

▶ピアノをはじめたきっかけは

４歳のときからピアノを始めました。幼稚園の先生が弾いているのを見て楽しそうだなと思い、自分から両親に習いたいとお願いしました。両親からは半年経っても気持ちが変わらなければいいよと言われ、半年間しつこくお願いし続け、やっと習い始めることができました。そのときは、とにかく楽しくて楽しくて、先生が驚かれるくらい新曲をどんどん弾いて何冊もの楽譜をあっという間に弾き終えてしまいました。

▶ピアノの演奏活動を続けてきて思うことは何ですか

４歳のときからピアノを始め、早いもので12年経っています。世の中には弾ききれないほど沢山の素晴らしい曲があります。一生かけても全部弾くことはできないとは思いますが、一曲でも多くの曲に出会い、勉強をし続けたいと思っています。

▶今までピアノの活動をしてきて、楽しかったことや苦しかったことは何ですか

色々なコンクールやコンサートに出演していると、様々な音楽関係の方たちに出会い、音楽友達や仲間がどんどん増えていくので、そういう人たちとの出会いが一番楽しいと感じます。

苦しかったことは正直ありません。一般的には、練習がしんどい、コンクールの成績が思うように出ない、思うように演奏できないなどのことを、苦しく感じる人が多いと思うのですが、僕はバカがつくほどポジティブ思考の人間ですので、むしろうまくいかない時は、“ピンチはチャンス”という考え方で、俄然やる気が出るといいますか、「まだ僕にはのびしろがあるな」と考えて嬉しくなってしまいます（笑）。切り替えの早さには自信があります。

▶ピアノの魅力は何ですか

ピアノは一台でオーケストラの音色を出せる所が最大の魅力です。（様々な打鍵タッチや奏法で音色を変えます。）

▶演奏会、コンクールに際して心がけていることは何ですか

まず、第一に「楽しむ」ということです。

次に、「感謝」の気持ちをもって演奏することです。先生や家族、友達、作曲家、作品に対して、感謝を込めて演奏しています。

「楽しむ」「感謝」に加えて大事にしているのは、偉大な作曲家が作ってくださった曲を、作曲家の意図を汲んだ上で、聴いてくださる方にどう伝えたら心に響くだろうか、楽しんで頂けるだろうかということを考えることです。伝え方を磨くため、努力は決して惜しまず、妥協しません。

▶憧れのピアニストは

ピアニストにはそれぞれの個性があり、曲によってこのピアニストの弾き方が好きだなあとか素晴らしいなあとかが異なります。なので、憧れる存在は沢山ありすぎて絞りきれません。（アンドラーシュ・シフ、マウリツィオ・ポリーニ、ウラディーミル・アシュケナージ、ユジャ・ワン、アレクサンドル・カントロフ、反田恭平、藤田真央の各氏…等々）

日本人としては、日本の音楽業界の先を見据えた考え方や行動力の高さが素晴らしい反田恭平さんを尊敬しています。

▶ピアノを通じて学んだことは何ですか

全ての物事や人に感謝する気持ちを持つということです。ピアノは、舞台では１人で演奏することが多いものなのですが、その1回の舞台で演奏するまで、とても多くの方たちが関わってくださり、僕を支え応援してくださっています。先生を始め、運営スタッフの方々、応援してくれる知人や友人、こういう環境を作ってくれている家族、聴きに来てくださるお客様など、いずれが欠けても僕が舞台で演奏することはできません。コロナ禍が収まらず、中止や延期される演奏会も多かった時期があり、当たり前のことなど何一つないことに改めて気付きました。

▶現在の活動について

高校に入り、ピアノに専念する時間が増えたため、入学してから積極的に様々なコンクールを受けてきました。その結果、コンサートに出演させていただく機会も増えてきました。1回1回の舞台を大切にし、気を抜くことなく誠実に取り組んでいきたいと思っています。

▶演奏活動と普段の学校生活の両立について

勉強は授業中になるべく理解し、出された課題はその日のうちに早めに済ませ、テスト前にも普段と同じような生活ができるよう（ピアノの練習時間が減らないよう）頑張っています。

▶今後の目標や夢は

僕は１人でも多くの人に音楽の素晴らしさを伝えられるようになりたいと考えています。日本だけでなく海外での演奏活動を可能にするため、その手段として海外コンクール入賞も果たしたいと望んでいます。そして世界中の色々な人たちと出会いたい。そこが僕の新たなスタート地点だと思っています。

頑張ってます運動部

セレッソ大阪堺ガールズレディース大活躍!!

セレッソ大阪堺ガールズ

JFA第25回全日本U-18 女子サッカー選手権大会

優勝

決勝　2022年1月10日(月)　11:00キックオフ

決勝において、三菱重工浦和レッズレディースユースとJグリーン堺にて対戦し、2-1で勝利を収め、優勝しました。

決勝出場選手（本校生徒）

吉田　琉衣　（DF 1年）	山内　さくら　（MF 2年）	北原　朱夏　（MF 2年 キャプテン）
米田　博美　（DF 2年）	中田　昌那　（MF 1年）	和田　麻希　（FW 2年）
楠　さやみ（DF 1年）	丸井　優奈　（MF 1年）	中田　凪咲　（GK 2年）【控え】

セレッソ大阪堺レディース

皇后杯 JFA 第43回 全日本女子サッカー選手権大会

準決勝　2022年1月5日(水)　16:00キックオフ

準決勝で三菱重工浦和レッズレディースとカンセキスタジアムとちぎにて対戦し、0-1で惜しくも敗れ、ベスト4となりました。

準決勝出場選手（本校生徒および卒業生）

山下　莉奈　（GK H30年度卒）	松本　奈己　（MF R2年度卒）	森中　陽菜（DF H29年度卒）【控え】
白垣　うの　（DF 1年）	田畑　晴菜　（FW R2年度卒）	中谷　莉奈（MF 1年）【控え】
荻久保　優里　（DF 3年）	岩本　まりの　（FW H31年度卒）	
宮本　光梨　（MF H30年度卒）	小山　史乃観　（FW 2年）	

セレッソ大阪堺レディース登録選手のうち、本校生徒および卒業生は以下の通りです。
応援よろしくお願いいたします。

登録選手（本校生徒および卒業生）

山下　莉奈　（GK H30年度卒）	吉田　琉衣　（DF 1年）	米田　博美　（MF 2年）
中田　凪咲　（GK 2年）	宮本　光梨　（MF H30年度卒）	和田　麻希　（MF 2年）
森中　陽菜　（DF H29年度卒）	松本　奈己　（MF R2年度卒）	中田　昌那　（MF 1年）
善積　わらい　（DF R2年度卒）	荻久保　優里　（MF 3年）	中谷　莉奈　（MF 1年）
小山　史乃観　（DF 2年）	四海　結稀奈　（MF 3年）	丸井　優奈　（MF 1年）
楠　さやみ　（DF 1年）	北原　朱夏　（MF 2年）	岩本　まりの　（FW H31年度卒）
白垣　うの　（DF 1年）	山内　さくら　（MF 2年）	田畑　晴菜　（FW R2年度卒）

女子サッカー部　全国大会で健闘！

女子サッカー部は、昨年から始まった大阪予選を首位で突破し、関西大会へと駒を進め、同大会で3位となり、2022年1月3日（月）から開催された「第30回全国高等学校女子サッカー選手権」に出場しました。
大会前日から開催地である兵庫県へ移動し、コンディションを整えて大会に臨みました。初戦は関東大会で1位に輝いた日本航空高校と対戦し、技術力の高い相手のパスワークをチーム一丸となって守り、1-0で勝利を掴みました。

翌日の2回戦では、夏のインターハイで惜しくも敗れてしまった岡山作陽高校と対戦し、夏の雪辱を果たして2-0で2回戦突破を決めました。しかし、強豪校との連戦で選手たちも疲労がたまり、中には怪我をしている者もいるような状態であったので、宿舎に戻ってとにかく心身のケアに努めました。

1月6日（木）に準々決勝で日ノ本学園と対戦し、1-1と拮抗した試合の中、お互い譲らず、PK戦にもつれ込みました。その結果9-10で敗れ、ベスト8で大会を終えました。

4日間で3試合という過密スケジュールの中、3年生が中心となって高い集中力とパフォーマンスを発揮してくれました。またコロナ禍の為に活動制限があった中でも、こうして全国の舞台でタフな試合を経験し、輝くことができたのは、選手の日々の努力と多くの方の支援のおかげであると改めて感謝の念を抱きました。1、2年生はこの3年生の背中を見て感じたものを今後の糧にして、今年度を超える結果を残していくことを期待しています。

※撮影時のみマスクを外しています。

令和3年度第68回大阪私立高校総合体育大会にて女子総合第1位獲得！

大阪私立中学校高等学校体育連盟の主催する第68回大阪私立高等学校総合体育大会において、本校初の女子総合第1位を獲得しました。この成績は、さまざまな競技における各校の成績をもとに選出されます。本校では、特にサッカー、空手道で第1位、体操で第2位となり、総合第1位となりました。昨年度に引き続き、新型コロナウィルス感染拡大の影響によって、各競技の大会が延期や中止になったり、従来通りの練習ができなかったり、とさまざまな制約がありましたが、その状況下でもできることに一生懸命取り組み努力した結果と受けとめています。この素晴らしい結果を生み出すために力を尽くした生徒たちを称え、更なる活躍を期待しています。

学芸スポーツ

GAKUGEI SPORTS　2022/ 3月19日

第19号

■発行元 大阪学芸高等学校・大阪学芸高等学校附属中学校
〒558-0003 大阪市住吉区長居1丁目4番15号
TEL.06-6693-6301　FAX.06-6693-5173

大阪駅伝、近畿高校駅伝、躍進!!

近畿高校駅伝 創部初 出場

※撮影時のみマスクを外しています。

今回、全国高校駅伝大阪予選会で5位に入賞し、チームそして私自身の目標であった近畿高校駅伝に出場することができました。

ここまでの道のりは決して平らではなく、上手くいかない時期もありましたが、日々の厳しい練習の積み重ねが生んだ成果だと思います。厳しい練習を乗り越えることができたのも、毎日選手の体調などを考えてメニューを組んでくださっている仲島先生の存在や、楽しい時も苦しい時も切磋琢磨しながら一緒に練習を行ってきたチームメイトと選手を支えてくれているマネジャーという、陸上競技部のみんなのおかげがあったからだと思います。

※撮影時のみマスクを外しています。

近畿高校駅伝は23位という悔しい結果に終わりましたが、初の大舞台での経験は次に繋がる貴重なものでした。コロナ禍で活動に制限はありますが、4月からの新シーズンに備えて、練習できることに感謝しつつ、まずはトラックでの近畿大会出場を目指して精一杯練習に励んでいきます。

大阪駅伝・近畿高校駅伝で応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

女子陸上競技部・主将　清水つばさ

2021年度の女子陸上競技部の目標はトラック・ロードともに、創部初の近畿大会出場でした。

しかし、前半のトラックシーズンはコロナ禍による練習不足もあり、コンディション不良に陥り、結果の芳しくない状況が続きました。

苦しい状況下において、チームをはじめ部員に求めたのは競技に対しての意識改革でした。与えられた練習をただ黙々とこなすだけではなく、練習を行う前日の段階から翌日の練習へ向けて、心身ともにコンディションを整えるなど、準備段階から練習に対して高い意識を持たせるというものでした。夏場以降、少しずつですが、選手が見せる練習への姿勢に変化の兆しが見え始め、例年以上に強度の高い練習をこなすようになりました。8月中旬の大阪総体では、女子5000m競歩で近畿大会に出場し、10月の長距離記録会でも多くの選手がベストタイムを更新しました。その選手たちの陸上に対する真摯な姿勢が、11月の全国高校駅伝大阪予選会で5位入賞し、創部初の近畿高校駅伝出場に繋がったと確信しています。

近畿高校駅伝に出場ができたもう一つの要因は、部員全員が一丸となって戦い抜いたことです。女子陸上競技部とともに切磋琢磨しながら練習に励む男子部員や選手を支えるマネジャー、大阪予選会の控えに回った選手たちが、戦略分析の補助や当日の準備を行い、チームを支えてくれました。チームに活気が失われ練習への意識が乱れた際は、控え選手が中心となってミーティングを呼びかけてくれました。心を一つにして駅伝を戦っていこうとする行動が、団結力を高めたと思われます。

近畿高校駅伝という目標を達成した今、次なる目標は全国の大舞台で戦うことです。全国という最高の舞台への道のりは非常に険しく、決して容易ではありませんが、真冬の風物詩である都大路（全国高校駅伝）に出場すべく、日々精進し、取り組んでいく決意です。

全国私学大会初出場決定!!

女子バレーボール部

2021年12月22日（水）～23日（木）の日程で「おおきにアリーナ舞洲」を拠点に行われた「第40回記念近畿私立高等学校バレーボール選手権大会」に、大阪府代表として出場しました。

22日には、3チームのグループ予選が行われました。滋賀県優勝校で1月開催の"春の高校バレー"にも出場している近江兄弟社高校と対戦し、見事勝利をおさめ、予選1位通過を果たしました。ゲーム中盤、6点差まで離された場面もあり、終盤にさしかかっても20-23と不利なゲーム運びでしたが、持ち味である粘りのバレーで逆転し勝利することができました。

23日、1位通過したチームで行われた決勝トーナメントでは、今大会準優勝校のPL学園に敗退しましたが、近畿から8チームのみ出場できる枠に推薦していただけることになりました。3年生と一緒にできる最後の大会で、目標としていた「全国私学大会出場」を果たすことができたのは、チームの大切な財産となりました。

結果への不安にとらわれず、プレッシャーに打ち勝ち結果を出すことは容易ではありません。勝負において、誰も分からない未来のことに不安を抱いた瞬間、良い結果など出るわけがありません。その場面のために取り組んできた練習の成果しか頼るものはない、だからこそ練習にどれだけ本気で取り組むかが大切です。本気というのは、精神論ではなく、勝つための考察であり、鍛錬の密度です。1年間かけて鍛錬の密度を上げてきた自分たちのバレーで成果を出せたことは、選手たちにとって大きな自信となりました。この経験を活かし、全国私学大会でも自分たちのバレーを発揮できるよう頑張ります。

※撮影時のみマスクを外しています。

近畿大会 試合結果

●予選

大阪学芸 2（27-25,25-18）0 近江兄弟社

大阪学芸 2（25-8,25-7）0 京都西山

●1位リーグ決勝トーナメント

1回戦　大阪学芸 0（13-25,12-25）2　PL学園

空手道部

全国大会出場!!

●大会名
JOCジュニアオリンピックカップ
第41回全国高等学校空手道選抜大会

●開催日・場所
2022年3月24日（木）～26日（土）
宮城県総合運動公園・グランディ21セキスイスーパーアリーナ

●出場種目及び選手
・男女団体組手　・男女団体形
・女子個人組手…伊藤　好唯／宮尾　早絵／片岡　藍／藤原　海月
・男子個人形……若林　寛斗／大城戸　太陽
・女子個人形……山本　真由／古河　蒼波

●大会名
JOCジュニアオリンピックカップ
文部科学大臣旗争奪　未来くん杯第16回全国中学生選抜大会

●開催日・場所
2022年3月28日（月）～30日（水）京都市体育館

●出場種目及び選手
・男子個人組手
植田　那臣希／藤坂　栞大朗／足代　海夏／堀内　寿眞
・女子個人組手
浦平　莉佳／松下　真心／安藤　一華／浦平　留佳／
岡本　明花音／森　麻衣佳
・男子個人形
田井　滉泰／奥村　宗司／麦谷　亮英
・女子個人形
溝端　彩恵／森　絢愛